

令和4年  
6月30日

# 病害虫発生予報 7月号

茨城県病害虫防除所

防護装備（マスク・保護メガネ・防護衣）をきちんと着用しましょう

～令和4年度茨城県農薬危害防止運動期間（6/15～9/14）～

## < 目次 >

### I. 今月の予報

#### 【注意すべき病害虫】

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| 水稲：いもち病（葉いもち）                 | 1  |
| ○水稲における紋枯病の防除対策について           | 1  |
| 【防除所レポート】クモヘリカメムシの産卵開始時期の予測   | 2  |
| ○水稲早生品種の斑点米カメムシ類の発生に注意しましょう！  | 2  |
| サツマイモ：ナカジロシタバ                 | 3  |
| ナシ：黒星病、ナシヒメシンクイ（第三世代幼虫）       | 3  |
| 【防除所レポート】ナシヒメシンクイの防除適期の予測     | 4  |
| 果樹共通：チャバネアオカメムシ               | 5  |
| 夏ネギ：黒斑病（葉枯病を含む）、べと病、さび病       | 5  |
| ○ネギ軟腐病の発生に注意しましょう！            | 7  |
| ○施設野菜の栽培終了後の管理について            | 7  |
| ○サツマイモ基腐病の防除対策（生育期）           | 8  |
| 【その他の病害虫】                     |    |
| 水稲、サツマイモ、ナシ、ブドウ、夏ネギ、夏秋ナス、共通害虫 | 9  |
| II. 今月の気象予報                   | 10 |

最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの「農薬登録情報提供システム」(<https://pesticide.maff.go.jp/>)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所   Tel :0299-45-8200

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス

<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/>

フェロモントラップデータ随時更新中



# I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

## 水 稲

### 1. いもち病（葉いもち）

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量  | 発生地域 |
|------|------|------|
| —    | やや多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、調査圃場の葉いもちの発病度<sup>1)</sup>（本年値 0.2、平年値 0.1）および発生地点率（本年値 7%、平年値 3%）はともに平年よりやや高い。
- ② 6月下旬現在、BLASTAM<sup>2)</sup>による葉いもちの感染好適条件の出現日数は平年よりやや少なかったが、準感染好適条件は6月第2-3半旬に県内の広範囲で認められた。
  - 1) 発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。
  - 2) BLASTAM：アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測プログラム。

[防除上注意すべき事項]

- ① 置苗は、いもち病の発生源となるため、現在水田に置苗がある場合には、水田およびその周辺に放置せず、持ち出して適切に処分をする。
- ② イネの葉色が濃い所や水口等を観察し、初発の確認に努め、発生初期に防除を実施する。
- ③ 粒剤等で防除する際は、効果が現れるまで時間がかかるため使用時期に注意するとともに、湛水状態で薬剤を散布し、1週間は止水して湛水状態を保つ。
- ④ 殺菌剤を複数回使用する場合、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤を選択する。
- ⑤ 各地点の BLASTAM による葉いもちの感染好適条件の詳細については、病害虫防除所ホームページで情報を随時更新しているので参考にする。

### 水稲における紋枯病の防除対策について

近年、病害虫防除所が調査している水稲圃場において、紋枯病の発生が多い傾向にあります。紋枯病は、前年のイネの病斑上に形成された菌核が圃場にとどまり次作の伝染源となるため、毎年同じ圃場で発生しやすい傾向があります。昨年、発生が多かった圃場では特に注意して対策を行いましょう。

[特徴]

前年の被害株や畦畔等の罹病雑草に形成された菌核で越冬し、伝染源となる。菌核は代かき時に水面に浮上し、株元に漂着する。気温が上昇し、株間の湿度が高くなると、菌核から発芽した菌糸が伸長して葉鞘内に侵入し始め、楕円形病斑をつくる。本病にかかると、下葉から次第に枯れ上がり、イネの茎が弱くなって倒伏しやすくなる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 病斑は水際に近い下部の葉鞘から現れ、次第に上位に進展するため、薬剤散布は下部の葉鞘にまでかかるように行う。
- ② 前年発生がみられた圃場では本病が発生しやすいため特に注意し、発生が認められた場合には早期に防除を行う。

## 防除所レポート [クモヘリカメムシの産卵開始時期の予測]

[クモヘリカメムシの産卵開始時期]

- ① クモヘリカメムシの有効積算温度から予測した今年の産卵開始時期は、平年よりやや早いと予想される。

表 クモヘリカメムシの予測産卵開始時期<sup>1)</sup>

|     | 常陸大宮市 | 北茨城市 | 水戸市  | 笠間市  | 鹿嶋市  | 鉾田市  | 土浦市  | 龍ヶ崎市 | 筑西市  | 古河市 | 全県平均 <sup>2)</sup> |
|-----|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|--------------------|
| 本年値 | 7/19  | 8/6  | 7/15 | 7/14 | 7/19 | 7/17 | 7/10 | 7/13 | 7/10 | 7/4 | 7/16               |
| 平年値 | 7/25  | 8/13 | 7/19 | 7/15 | 7/20 | 7/23 | 7/13 | 7/15 | 7/13 | 7/7 | 7/19               |

1) 今後の気温が平年並に推移した場合 (6月27日現在)

2) 表に示した地点以外も含む

## 水稻早生品種の斑点米カメムシ類の発生に注意しましょう！

～近年発生の多い地域や常発地では特に注意して下さい～

本県において斑点米カメムシ類による斑点米は、等級格下げの主要因となっています。主な加害種はクモヘリカメムシ (写真1)、イネカメムシ (写真2)、アカスジカスミカメです。

近年、県南地域を中心に発生が確認されていたイネカメムシが県内全域で発生が認められていますので注意して下さい。

斑点米カメムシ類の成虫は、水稻の出穂前は畦畔や周辺のイネ科雑草地に生息し、出穂とともに水田に侵入します。

「あきたこまち」等の早生品種の水田では、成虫の飛来が集中するおそれがあります。また、その他の品種についても周辺より出穂の早い水田では、発生に注意して下さい。

[防除対策]

- ① 水田周辺のイネ科雑草は、カメムシ類の生息場所となるので除草に努める。ただし、出穂期近くになってからの除草は、カメムシ類を水田内へ追い込むことになるので、水稻の出穂2週間前までに終わらせる。
- ② 不稔被害の軽減を目的とした防除は、出穂期～穂揃期に行う。出穂期前後の圃場で成虫や幼虫を確認した場合は防除を実施する。
- ③ 乳熟期以降の幼虫密度が高いと斑点米の発生量が多くなる。斑点米被害の軽減を目的とした防除は、出穂後10～15日頃 (乳熟期)に行う。
- ④ 発生量が多い地域は、出穂期～穂揃期と乳熟期の2回散布を検討する。
- ⑤ ふ化直後の幼虫は非常に小さく、気がつかない場合があるため、水田内をよく観察する。
- ⑥ 防除の際には、収穫前日数や使用回数及び周辺作物 (特に早生品種を作付している水田) への飛散に注意する。



写真1 クモヘリカメムシ(成虫)



写真2 イネカメムシ(成虫)

## サツマイモ

### 1. ナカジロシタバ

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量 | 発生地域 |
|------|-----|------|
| —    | 多い  | 県下全域 |

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、被害つる先率（本年値 5.6%、平年値 0.4%）および発生地点率（本年値 80%、平年値 12%）はともに平年より高い。
- ② 気象予報によると、向こう 1 か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 例年より早い時期から被害が多く認められているため、圃場をよく確認し、防除適期を逃さないよう注意する。
- ② 老齢幼虫になると防除効果が劣るので、若齢～中齢幼虫の時期（つる先、上位葉に丸く穴の開いた葉が散見される時期）の防除に努める。
- ③ 薬剤散布の際は、幼虫が生息する葉裏までよくかかるよう丁寧に散布する。

## ナシ

### 1. 黒星病

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量  | 発生地域 |
|------|------|------|
| —    | やや多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、発病果率（本年値 1.4%、平年値 0.4%）は平年より高く、発生地点率（本年値 45%、平年値 37%）は平年並である。
- ② 6月下旬現在、発病葉率（本年値 1.7%、平年値 0.8%）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 55%、平年値 59%）は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病した果実および葉は第二次伝染源となるため、見つけ次第除去し、適切に処分する。
- ② 果実への感染が増える時期なので、薬剤散布は参考防除例を参考に散布間隔が空かないようにする。
- ③ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

(ナシ 続き)

## 2. ナシヒメシンクイ (第三世代幼虫)

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量      | 発生地域 |
|------|----------|------|
| —    | 平年並～やや多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、被害果を認めず平年並である。
- ② 4月から6月中旬までのナシヒメシンクイのフェロモントラップへの総誘殺数は、かすみがうら市で平年より多く、笠間市、小美玉市で平年よりやや多く、土浦市、筑西市では平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 被害果を見つけた場合は、速やかに処分し、成虫の発生を防ぐ。
- ② 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

(下記、防除所レポート参照)

### 防除所レポート [ナシヒメシンクイの防除適期の予測]

- ① ナシヒメシンクイ第三世代幼虫を対象とした防除適期は、**第二世代成虫の誘殺数がピークに達した日の1～2日後**である。
- ② 各地点の第二世代成虫の誘殺最盛期は、第一世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と有効積算温度から予測した。
- ③ 今後、病害虫防除所ホームページで誘殺状況を随時更新するので参考にする。

表 調査圃場におけるナシヒメシンクイ第三世代幼虫の予測防除適期

| 地点        | 第三世代幼虫の予測防除適期 <sup>1)</sup> |   |       |
|-----------|-----------------------------|---|-------|
| 笠間市       | 7月22日                       | ～ | 7月26日 |
| 小美玉市      | 7月15日                       | ～ | 7月18日 |
| かすみがうら市   | 7月17日                       | ～ | 7月21日 |
| 土浦市       | 7月17日                       | ～ | 7月21日 |
| 筑西市(旧下館市) | 7月12日                       | ～ | 7月14日 |
| 筑西市(旧関城町) | 7月14日                       | ～ | 7月17日 |

1) 第一世代成虫の誘殺最盛期を基に予測した(6月27日現在)。

## 果樹共通

### 1. チャバネアオカメムシ

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量  | 発生地域 |
|------|------|------|
| —    | やや多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、ナシ園における果樹カメムシ類の被害果率(本年値 0.03%、平年値 0.01%)は平年よりやや高い。
- ② 6月第4半旬現在、かすみがうら市の果樹園内に設置した予察灯のチャバネアオカメムシ誘殺数は、平年よりやや多い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 夜温が高くと、果樹園への飛来が増加するので注意する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合には、活動が鈍い早朝に薬剤散布を行う。

(令和4年5月27日発表 病害虫発生予察注意報第2号 参照)

## 夏ネギ

### 1. 黒斑病(葉枯病を含む)

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量 | 発生地域 |
|------|-----|------|
| —    | 多い  | 県下全域 |

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、発病度\* (本年値 12.4、過去6年平均値 3.9)、発生地点率(本年値 100%、過去6年平均値 60%)はともに平年より高い。

※発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病初期の防除に重点をおき、その後の発病状況に応じて薬剤散布を行う。
- ② 薬剤散布は、必要に応じて展着剤を加用して丁寧に行う。また、収穫前日数に十分注意する。
- ③ 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 肥料切れや多肥は発生を助長するため、生育状況に合わせ適切な肥培管理を行う。

(夏ネギ 続き)

## 2. べと病

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量 | 発生地域 |
|------|-----|------|
| —    | 多い  | 県下全域 |

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、発病度<sup>\*</sup>(本年値 12.9、平年値 2.3)、発生地点率(本年値 100%、平年値 47%)はともに平年より高い。

※発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 圃場をよく観察し、発病が認められたら初期防除を行う。  
② 薬剤散布は、必要に応じて展着剤を加用して丁寧に行う。また、収穫前日数に十分注意する。  
③ 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

## 3. さび病

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量     | 発生地域 |
|------|---------|------|
| —    | やや多い～多い | 県下全域 |

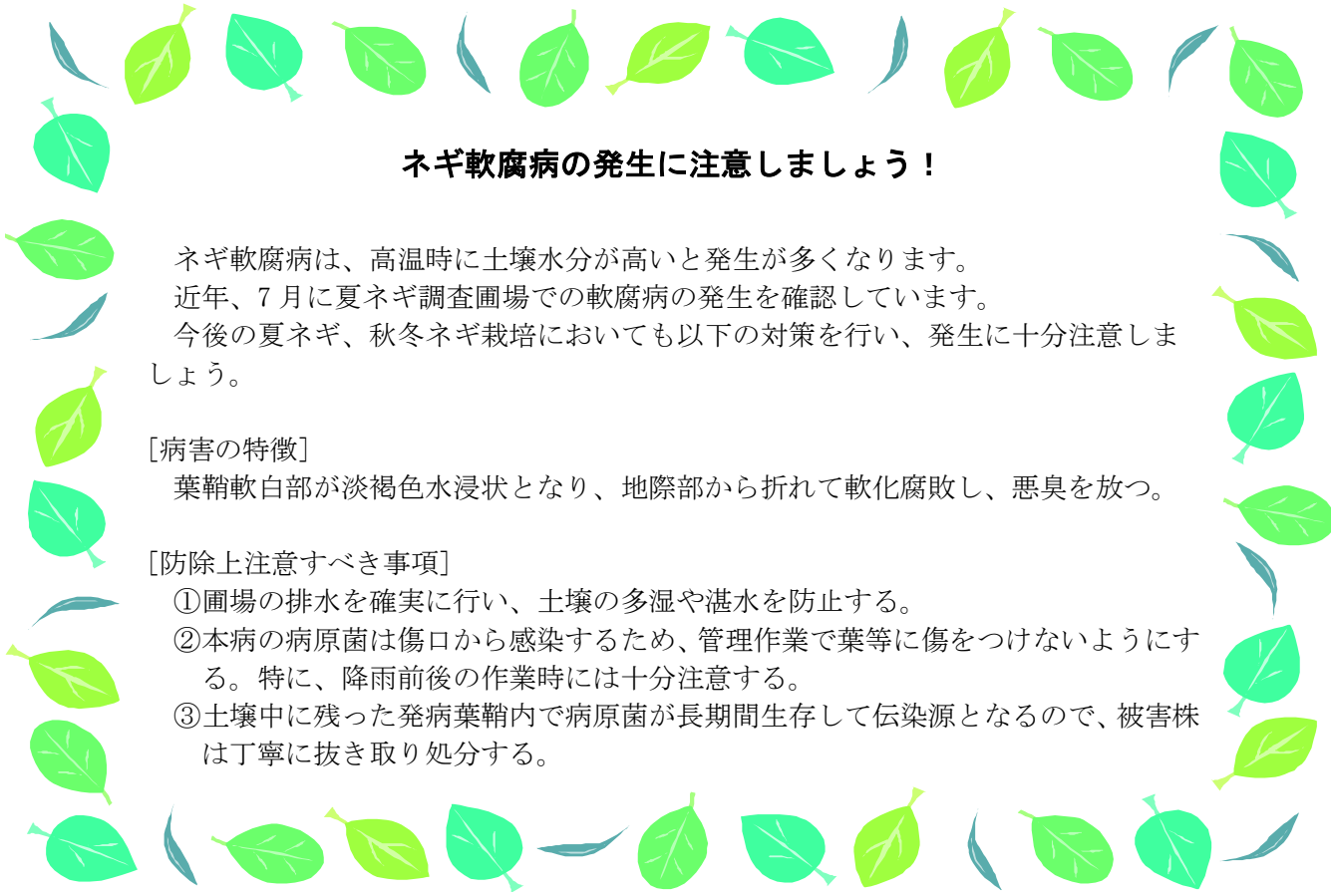
[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、発病度<sup>\*</sup>(本年値 15.0、平年値 6.7)は平年よりやや高い～高い、発生地点率(本年値 100%、平年値 70%)は平年より高い。

※発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 本病は気温が 25℃以下で高湿度が続くと発病しやすい。圃場をよく観察し、発病が認められたら初期防除を行う。  
② 薬剤散布は、必要に応じて展着剤を加用して丁寧に行う。また、収穫前日数に十分注意する。  
③ 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。



## ネギ軟腐病の発生に注意しましょう！

ネギ軟腐病は、高温時に土壤水分が高いと発生が多くなります。  
近年、7月に夏ネギ調査圃場での軟腐病の発生を確認しています。  
今後の夏ネギ、秋冬ネギ栽培においても以下の対策を行い、発生に十分注意しましょう。

### [病害の特徴]

葉鞘軟白部が淡褐色水浸状となり、地際部から折れて軟化腐敗し、悪臭を放つ。

### [防除上注意すべき事項]

- ①圃場の排水を確実にし、土壤の多湿や湛水を防止する。
- ②本病の病原菌は傷口から感染するため、管理作業で葉等に傷をつけないようにする。特に、降雨前後の作業時には十分注意する。
- ③土壤中に残った発病葉鞘内で病原菌が長期間生存して伝染源となるので、被害株は丁寧に抜き取り処分する。



## 施設野菜の栽培終了後の管理について

近年、トマト黄化葉巻病、キュウリ退緑黄化病、ピーマン黄化えそ病など、微小害虫が媒介するウイルス病の発生が問題となっています。

栽培終了後の施設では、次作の病虫害防除のための管理を適切に行いましょう。  
アザミウマ類、コナジラミ類、アブラムシ類などの微小害虫は、各種ウイルス病を媒介するので、ハウス外への飛び出しや次作への持ち越しを防止するため、株を誘引したまま根を引き抜き、2週間程度ハウスを密閉し、蒸し込みを行います。蒸し込み終了後は、作物残渣をハウス外へ持ち出して適切に処分してください。



## サツマイモ基腐病の防除対策（生育期）

サツマイモが本病に感染・発病すると、栽培中、地上部の茎葉が枯死し、地下部の塊根（イモ）は腐敗していきます。また、周囲の健全な株にも病原菌が伝染するため、本病が圃場内にまん延し、大きな減収を招きます。

育苗から生育期、収穫から貯蔵まで年間を通して被害が拡大するおそれがあるので、侵入防止と早期発見に努めましょう。

### 【侵入に備えた準備】

- ・排水の悪い圃場は発病しやすいため、明きょ設置や耕盤破碎、枕畦の途中に排水溝を設置するなど、排水対策を徹底しておく。
- ・他の圃場への拡散を防ぐため、作業する圃場ごとに農機具や長靴等についた土をよく落とし、きれいに洗浄する。

### 【生育初期での早期発見】

発病株を圃場に残しておく、発病部位から大量の胞子が形成され、降雨によりできた湛水や跳ね上がりなどにより移動する。周辺の健全株の茎がこれらの胞子に接触すると本病に感染する。

茎葉が繁茂する生育旺盛期になると、圃場を一見しただけでは株の異常に気付きにくい。ため発生が密かに拡がり、圃場内に本病がまん延する。そのため生育初期での早期発見が重要となる。

植え付け後（生育初期）、茎葉が地上部を覆うまでの期間（発病株を見つけやすい時期）は、特に以下の観察を徹底する。その後も、月2回は地上部に変化がないか必ず確認する。

- ・葉の変色（赤変・黄変）
- ・株元の茎の黒変

### 【苗床の処理（来年の健全苗の確保ために）】

育苗終了後は苗床の残さ（残った茎、葉、イモなど）を育苗ハウスから持ち出し処分する。

苗床は、耕うんして残さの分解を促したのち、梅雨明け後の高温期に太陽熱消毒を行う。

※本病が疑われる症状を見つけた場合は、抜き取ってしまわずに、まず直ちに各地域の農業改良普及センターまで連絡してください。

【その他の病害虫】

| 作物    | 病害虫名      | 発生予測          | 発生概況及び注意すべき事項   |
|-------|-----------|---------------|---|
| 水稲    | 縞葉枯病      | 発生量：多い        | 6月下旬現在、一部圃場で発生を認めている。県西地域、県南の一部地域におけるヒメトビウンカ第一世代幼虫の発生量が多く、イネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率は、12地点中5地点で5%以上の高い値となった（5月27日発表 病害虫発生予察注意報および6月3日発表 病害虫速報 No.4 参照）。 |
|       | イネドロオイムシ  | 発生量：平年並～やや多い  | 6月下旬現在、被害度は平年並、幼虫数は平年よりやや多い。  |
|       | イネツトムシ    | 発生量：平年並       | 6月下旬現在、平年並の発生である。葉色が濃い水田では発生に注意し、発生が多い場合には、幼虫が小さいうち（葉先が巻かれ始める時期）に防除を実施する。   |
|       | ニカメイガ     | 発生量：平年並       | 6月下旬現在、平年並の発生である。   |
| イサモツマ | イモキバガ     | 発生量：やや多い      | 6月下旬現在、平年よりやや多い発生である。   |
| ナシ    | ハダニ類      | 発生量：平年並       | 6月下旬現在、平年並の発生である。気温の上昇に伴い発生が助長されるので注意する。  |
| ブドウ   | 褐斑病       | 発生量：平年並       | 6月下旬現在、平年並の発生である。参考防除例を参考に、袋掛け前の防除を徹底する。  |
|       | 晩腐病       |               |   |
|       | べと病       |               |   |
| 夏ネギ   | ネギアザミウマ   | 発生量：平年並～やや少ない | 6月下旬現在、平年並～やや少ない発生である。今後は気温の上昇に伴って増殖が速くなるので、発生圃場では速やかに防除を実施する。  |
|       | ネギハモグリバエ  |               |   |
| 夏秋ナス  | ハダニ類      | 発生量：平年並～やや多い  | 6月下旬現在、平年並～やや多い発生である。   |
|       | アザミウマ類    | 発生量：平年並～やや少ない | 6月下旬現在、平年並～やや少ない発生である。  |
| 共通害虫  | オオタバコガ    | 発生量：やや多い      | 6月下旬現在、フェロモントラップへの総誘殺数は、土浦市で平年より多く、龍ヶ崎市で平年よりやや多く、筑西市で平年並である。  |
|       | シロイチモジヨトウ | 発生量：やや多い      | 6月下旬現在、フェロモントラップへの総誘殺数は、つくば市で平年よりやや多い。  |
|       | ハスモンヨトウ   | 発生量：やや少ない～少ない | 6月下旬現在、フェロモントラップへの総誘殺数は、土浦市で平年よりやや少なく、鉾田市で平年よりやや少ない～少なく、龍ヶ崎市および筑西市で平年より少ない。   |

## Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 7月2日から8月1日)

気象庁(6月30日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

| [確率] | 要素   | 予報対象地域 | 低い(少ない) | 平年並 | 高い(多い) |
|------|------|--------|---------|-----|--------|
|      | 気温   | 関東甲信全域 | 10      | 40  | 50     |
|      | 降水量  | 関東甲信全域 | 40      | 40  | 20     |
|      | 日照時間 | 関東甲信全域 | 20      | 40  | 40     |

[概要]

期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。

期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 7月2日(土曜日)から7月8日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率70%

<2週目の予報> 7月9日(土曜日)から7月15日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

<3週目から4週目の予報>7月16日(土曜日)から7月29日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類(FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。